



【第47期准看護師課程戴帽式】

令和4年10月1日

令和4年9月30日（金）自衛隊札幌病院准看護学院（学院長 野澤1佐）は、北部方面総監部から医務官、人事部人事課長、防衛部訓練課長、最先任上級曹長の臨席のもと、第47期准看護師課程の戴帽式を挙行了。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染予防に十分配慮し、厳粛な雰囲気の中執り行われた。戴帽の儀において純白の看護衣に身を包んだ25名（男性11名、女性14名）は、教務班長（米川3佐）からナースキャップを戴いた。学生長（細田士長）指揮の下、衛生科精神を唱和し、「医療従事者として過酷で困難な状況においても、人道に基づく愛情をもって、骨肉の至情と挺身奉仕の精神に徹し、勇敢かつ沈着冷静に任務に邁進する。」と誓いを立てた。

病院長（鈴木陸将）は、「これから臨地実習が始まる。今まで学院で学んだ全てを統合し看護を行うに必要な知識、技術、態度を習得する大切な期間です。医療・看護は、かけがえのない命を守るためのものであり、安全・確実でなければならない。患者さんの思いを理解し、苦痛を少しでも軽減できるように、貪欲に知識・技術を高めていくと同時に、愛情に満ちた豊かな人間性やコミュニケーション能力も高めなければならない。患者さんを思いやる気持ちを持ち、身体と心を癒せる看護者となるために日々何をすべきかを考え、『ベストを尽くす』ために、積極的に学ぶ努力を積み重ね続けていくことが大切です。相手の気持ちを『思いやり』如何なる状況・環境においても「『大切な仲間』を救う役割を胸に秘め、職務に対する尊き使命感のもと、心身を磨き技術を身に付け、人間力の強化に努めてもらいたい。」と訓示した。

学院長（野澤1佐）は、「ビジョン&ハードワーク」、「人としての成長」の2点を要望し、「諸官一人一人が准看護師としての目標を明確にし、それを達成するために日々何をすべきかを考え、地道な努力を積み重ねるとともに、患者の看護を通じて自らが学ばせてもらっているのだという謙虚な気持ちを常に忘れず、患者の心に寄り添い、思いやりを持って接し、そして、医療人としての自覚と責任感を持って実習に励み、准看護師として必要な知識と技術を習得するだけでなく、人としても大きく成長し、1年半後にはここにいる全員が人として立派に成長した准看護師たる衛生救護陸曹となれるよう大いに期待します。」と式辞を述べた。

北部方面総監部医務官（小林1佐）からは、「これからの様々な出来事が、あなたたちを強く、賢くし、そしてさらなる謙虚さと、向上心をもたらしてくれることでしょう。あらゆる事に目を向け、興味や関心を持ち、常に思いやり、そして多くの事を学び、成長を重ねて、優しさと強さを兼ね備えた理想高き看護の道を目指してもらいたい。」と祝辞を賜った。

学生は、医療従事者としての使命及び責任の重さを改めて自覚し、真に役立つ准看護師たる自衛官を目指すことを誓った。



戴帽の儀（男性自衛官）



戴帽の儀（女性自衛官）



衛生科精神唱和



札幌病院長（鈴木陸将）訓示



准看護学院長（野澤1佐）式辞



北部方面総監部医務官（小林1佐）祝辞